

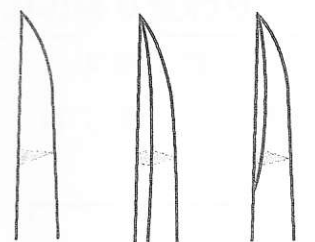
姿・地文・刃文の見方

日本刀の鑑賞は姿・地文・刃文を総合して行います。流派や時代で変化し、各刀工の特徴が表れます。刃物の金属表面を美的対象とする日本独自の文化により、各部分の特徴を正確に表すため、日本刀のための独自の言葉が多数生まれ、発展してきました。耳慣れない言葉が多いですが、このシートを手がかりに、実物と解説を見比べながら、日本刀の美しさを味わってみましょう。

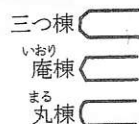
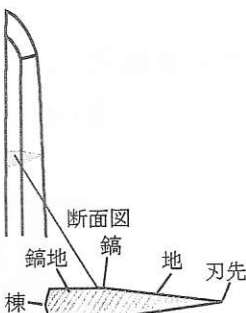
姿

ゆるやかな曲線、「鎗造」と「反り」は日本刀特有の形状です。

ひらづくり 平造
しょうぶ づくり 菖蒲造
かんむりおとしづくり 冠落造



しのぎづくり 鎗造



棟

しのぎ 鎗地

しのぎ 鎗

銘

- 無銘 (銘がないもの。作風から作者の判断をする)
- 額銘 (磨り上げの際に銘を切り取って嵌めたもの)
- 折返銘 (磨り上げの際に元の茎を折り曲げたもの)
- 底銘 (茎が朽ちたりして銘がかすかに見えるもの)
- 金象嵌銘 (後世本阿弥家が大磨上げの刀に金で嵌めたもの)
- 朱銘 (後世本阿弥家が生ぶ茎無銘の刀に朱漆で書いたもの)

- 生ぶ茎 (製作当時そのままの茎)
- 磨上げ (茎を一部削って短くしたもの)
- 大磨上げ (元の茎がなくなるまで短くしたもの)

茎

きつさき 鋒

- 小鋒 (幅広に短い鋒)
- 猪首鋒 (幅広に短い鋒)
- 中鋒
- 大鋒

ぼう し 帽子

鋒部分の刃文

よこ て 横手

み かしら 三つ頭

横手と鎗の交点

そ 反り

- 腰反り (元に近いところで反る)
- 輪反り (中ほどで反る)
- 先反り (先の方で反る)

地

は もん 刃文

は さき 刃先

むね まち 棟区

は まち 刃区

め くぎ あな 目釘穴

柄と刀身を固定する目釘のための孔